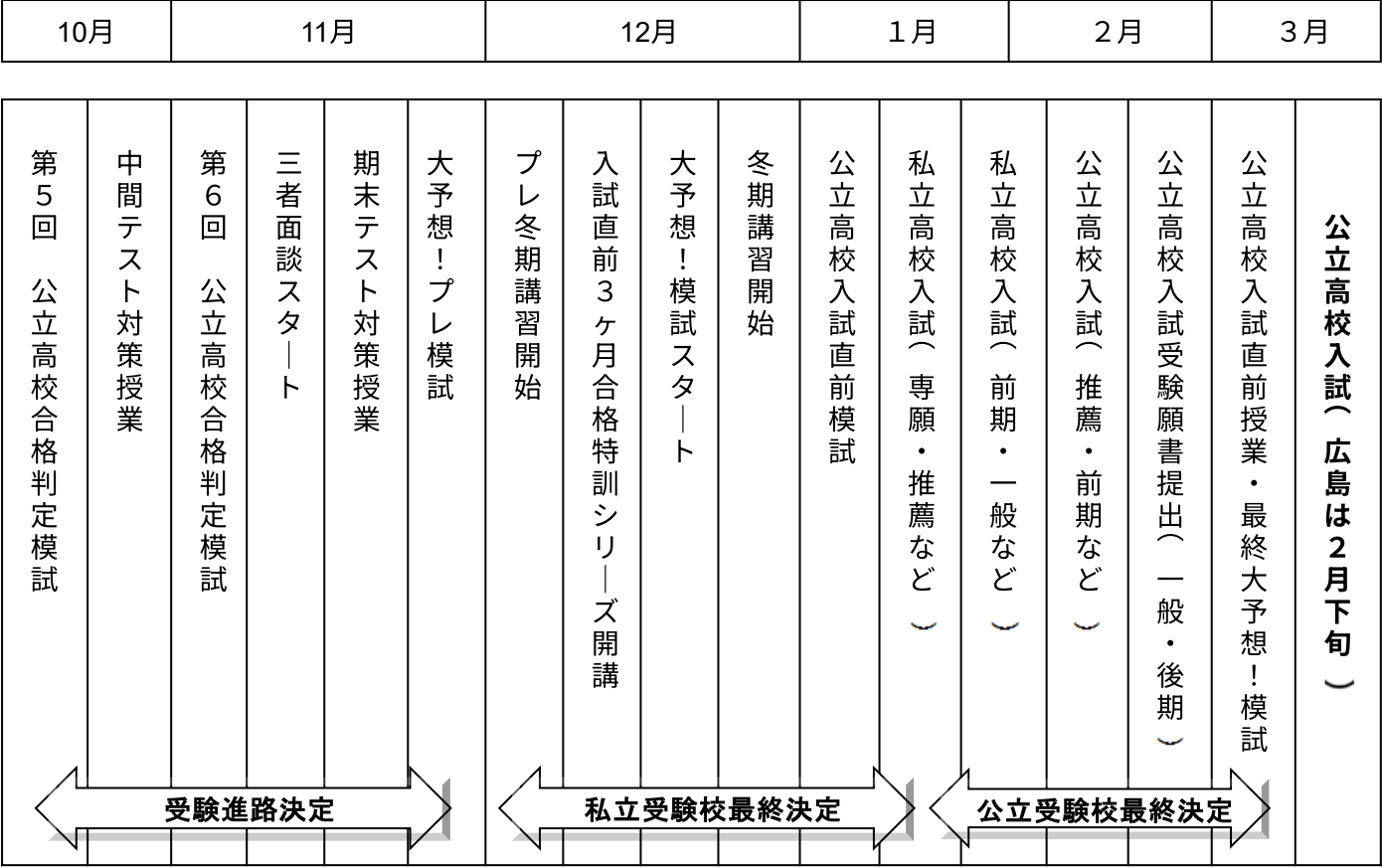


■志望校合格までの最強プロセス

●受験校決定から受験までの流れ



●公立高校入試日

福岡県	【推薦（特色）】 令和8年2月3日(火)・4日(水)	【一般】 令和8年3月10日(火)
佐賀県	【特別選抜】 令和8年2月3日(火)	【一般】 令和8年3月3日(火)・4日(水)
長崎県	【特別選抜】 令和8年1月27日(火)	【一般】 令和8年2月17日(火)・18日(水)
大分県	【推薦】 令和8年2月3日(火)・4日(水)	【一次】 令和8年3月10日(火)・11日(水)
熊本県	【前期（特色）】 令和8年2月2日(月)	【後期（一般）】 令和8年3月4日(水)・5日(木)
宮崎県	【推薦】 令和8年2月4日(水)	【一般】 令和8年3月4日(水)・5日(木)
鹿児島県	【推薦】 令和8年2月3日(火)	【一般】 令和8年3月4日(水)・5日(木)
広島県	【一次】 令和8年2月25日(水)～27日(金)	

■志望校・受験校はこう決める！

■志望校・受験校決定のための最大考慮点

□△□入試(公立高校)直前4ヶ月間で、自分自身も驚くほど成績が向上する。

志望校・受験校を最終的に10月の時期で決める受験生がいます。しかし、英進館の受験生は、毎年入試直前4ヶ月間で学力を一番伸ばしています。なぜなら、英進館では、入試直前4ヶ月まで基礎的な学習内容を中心に弱点補強をするカリキュラムで学習しますが、直前4ヶ月間は、単元を融合した入試問題が解ける実戦力をつけるカリキュラムで学習するからです。

したがって、直前4ヶ月で学力が飛躍的に伸びること、また伸びると信じ、寸暇を惜しみ、日々努力することを誓い、第一志望校を決して下げず、最後までがんばれば、必ず君は栄冠を手に入れます。

■テストの偏差値の見方

□△□英進館の「公立高校合格判定模試」の偏差値で志望校の合格可能性を予想する。

偏差値で志望校・受験校の合格可能性を予想するときに、いくつかの注意点があります。

1 偏差値は動く

テストの出来不出来で偏差値は ± 4 (300点満点で約20点、500点満点で約28点／以下の例は300点満点の場合です)は変動します。偏差値が下がったからといって短絡的に志望校を下げなければならないこと。総合点で20点の幅を科目で考えると、1科目あたり4点です。1問あたりの配点が1点から2点だとすると、1科目で2問から3問のケアレスミスということです。十分に挽回できる範囲です。このことを考慮せず、短絡的に偏差値を判断するのは意味のないことです。言い換えれば、偏差値は「キーワードチェック」を確実にやればすぐにでも4UPするということです。

2 英進館の偏差値と英進館以外のテストとの偏差値は比較できない

テスト受験者の母集団が違えば、同じ学力でも偏差値は違ってきます。英進館の偏差値は、他のテスト会での偏差値より低く出ます。なぜならば、英進館の受験者のレベルが高いからです。もし、他のテスト会のテストを受験し偏差値を比較するときは、要注意です。

■志望校・受験校の決め方

今年の私立・公立高校の入試結果から学校別の偏差値ランク表を参考にして、志望校・受験校を決めていく受験生が多く見受けられます。しかし、このランク表は、あくまでも今年の結果です。来年度の入試では、募集定員の増減や受験者の増減によって大きく倍率が変わり、合格ラインの偏差値が上がったり、下がったりするものです。したがって、これからの受験情報に耳を傾け、私立高校の受験状況をよく見極め、英進館の担任教師と十分に相談しながら私立・公立の志望校を決めていくことです。

■併願作戦を立てる

第一志望校合格へのプロセスとして、第一志望校受験の前に、必ず、入試体験をしておくといでしょう。

入試の経験は何よりも大切で、時間配分、解いたことのない問題・難問が出題された時にその場でどう対応するか判断などは、実際の入試本番でないと経験できません。夢実現のための第一志望校合格には、事前に経験できること、対処できることはすべて行うことが必須となります。「受験校は、第一志望校のみ」などの無謀な計画をせず、必ず、併願作戦を立てましょう。

■合格までの効果的な学習法

① 英進館の授業宿題予定表に従った学習計画をたて、英進館の授業がない日は、毎日最低でも3時間は自宅で勉強する。

テスト結果を気にするよりは、目標達成までのプロセスを一番大切にすること。プロセス重視の第一は、英進館の授業を一番大切にすること。行事があつて遅刻しても、できる限り授業は欠席しない。そして、塾がある日、ない日の2パターンについて、緻密な学習計画を立てる。5科目のバランスに注意し、宿題以外に復習の時間を確保する。1週間計画を実行し、無理、無駄な部分の修正をする。計画が確定すると、あとは実行するのみ。できない計画は何の意味もない。

② 私立高校の過去の入試問題の学習

私立高校の場合、問題作成者は毎年ほぼ同じ教師である場合が多いため、難易度、傾向とも、例年大きな差はない。過去の入試問題は最低でも3年分は解くこと。ただ解くのではなく、難易度、傾向、試験時間をよく考慮しながら、観察するような気持ちで問題にあたること。12月からの「入試直前3ヶ月合格特訓」の中で、私立高校入試も念頭に総復習を実施していく。

③ 満点答案の作成

これからは、復習に力を入れる方が、能率が上がる。間違った問題はきちんと復習をし、1週間後また解いて、完全に満点が取れるまで、復習をくり返そう。重要問題はくり返し出題される。

④ キーワードチェック の徹底

大予想！模試の開始時点でも、1科目で2問から3問のケアレスミスで失点している生徒がいる。これは偏差値でいうと、4ほど低く出ていることになる。模試の成績が悪いと悲観するのではなく、「キーワードチェック」の徹底を図ろう。それだけで確実に偏差値を4UPすることができる。

⑤ 間違いノートの作成／自分だけの参考書

間違いノートは面倒な分、自分の言葉で書くことによって、記述力がつく。間違いノートは、受験直前に効率の良い勉強ができるだけでなく、入試のときに見るだけで気持ちが落ち着き、自信が持てる。

⑥ 未来ノートの作成／受験勉強を自分で管理する

未来ノートを作成して、自分が何をやるのか（タスク）といつやるのか（スケジュール）を明確化することで、確実に実行につながり、受験勉強を自分で管理することができるようになる。また、これは将来の高校・大学や社会人としての生活を送る上でも役立つ。

私の中の英進館

▶筑紫丘高校、早稲田佐賀高校、筑陽学園高校 合格

A・R さん（筑紫丘高校一年 出身校 春日市立春日西中）

私は四月から福岡県立筑紫丘高校に入学します。という「すごく頑張った。」と思われるかもしれませんが、私一人では到底ここまで成長できませんでした。両親や友人、中学校の先生の支えもありましたが、やはり一番の存在は「英進館」でした。私は小学六年生の夏期講習案内がきっかけで通い始めました。最初は暇つぶしのような感じでしたが、クラスの友達と熱心な先生とテストの存在が頑張れた要因でした。英進館の先生方はとにかく熱い思いをもって指導します。そして成績が上がると自分のことのように喜んでくれます。また、英進館では定期的なテストでクラス分けや志望校の合格判定ができます。テストは順位を競うためだけでなく、客観的に自分の実力を把握するもの、という印象がありました。出来ている事、出来ていない事、解けないといけない問題などを先生と一緒に話していくことで弱点補強をしていきました。私は目指す職業が明確に決まっていなかったのも、将来の選択肢の幅が広がると思い進学校を志望しました。そして、早い時期に公立一般入試で入学すると決めていたので五教科の勉強に集中しました。家では何となく集中できなかったのも、授業のない日も自習室を毎日利用しました。自習室は皆がとても集中していて私もつられて集中することができます。また、分からないところをすぐに友達や先生に聞くことができるのも私が自習室をたくさん利用した理由の一つです。英進館では学力面だけでなく、メンタル面でも様々な力をもらえます。たとえば、私が受験に弱気になっていた時には「この成績なら筑紫丘以外ない。」と言ってもらい安心できました。ここでの学びやモチベーションの保ち方、気持ちの作り方、今何をすべきか考えることなどは、きっと高校でも役に立つと思います。私はそんな英進館や英進館の先生方が大好きです。

（「巣立ち」より抜粋）

⑦ 入試直前3ヶ月合格特訓

期末テストが終わったら、いよいよ「入試直前3ヶ月合格特訓シリーズ」がスタートする。第Ⅰ期（入試基礎力完成講座、12月・プレ冬期講習）、第Ⅱ期（応用・記述力完成講座、冬期講習）、第Ⅲ期（入試実戦力完成講座、1月～公立入試）に分け、ライバルと切磋琢磨することで、合格に必要な学力と入試本番に力を出せる強靱な精神力を身につける。

⑧ 3学期 いよいよラストスパート

2学期までは、週17時限（公立クラス）で授業を実施、3学期からは、20時限以上の授業時間を確保して、公立高第一志望校合格をめざす。

1月・2月ー「大予想！模試」を毎週実施。私立高校入試完全突破対策授業と公立高校入試実戦力アップ授業を実施し、「大予想！模試」の結果で毎週クラスを入れ替えを行います。各公立高校の合格ラインも毎週発表。規模、内容ともに本番の入試に最も近い模試として、受験生を第一志望校合格へと導く。

入試前2週間ー公立高校入試直前特訓演習と入試激励会を実施。

直前は、時間配分、合格答案の作り方、キーワードチェックなどの最後のつめをおこなっていく。また、入試激励会では、最後の注意と、ファイトがわく激励を担当教師が実施。